

飯道山は甲賀市信楽町宮町

にあります。

飯道山は、投行者による開基

である標高664.4の山です。山上には飯道神社があります。穀物や水の神である飯道権現が祀られています。「飯道山の水は米によい」、「飯道山の上が曇ると雨が降る」など、地元には伝わる言い伝えからも、飯道山が水や農耕の信仰の対象となっていることがわかります。

神社本殿の背後には巨岩がそびえ、そこはかつて修験の行場でした。紫雲宮遷座や飯道神社の神階奉授などの記述から、遅くとも奈良時代に「鏡日本記」「日本書紀」にみられる神師・優婆塞・菩薩などのような、山林で修行する民間宗教者の行場となっていたようです。

また、神社の周囲には石垣や土壁で囲まれた多くの院坊跡がありますが、これは中近世に隆盛を誇った飯道寺の坊跡で、当時の威容を今に伝える

ています。飯道寺は、投行者による開基とも金勝寺開祖願安の弟子・安文の開基ともいわれますが、南北朝時代以降の史料に修験道寺院として出てきます。紀州熊野修験道との関係が深まったようで、飯道山山伏は山城民衆の熊野詣引率や新宮本願所地主を何代も勤めていきます。最盛期には僧坊58

宇、住僧55人ともいわれ、支配する山伏は全国に及んでいました。しかし、江戸時代でも享保の頃（18世紀前半）になると、岩本院・梅本院以外は住僧もなく衰没し、明治の神仏分離、修験道禁止令で廃絶されます。

一方、飯道山山麓をはじめ甲賀地方には諸国から集う山

甲賀市の飯道山



坊跡の石垣

し、売薬・治療・祈祷・占い等も行っていたようです。彼らは諸社寺と民衆を結びつけ、祈祷・占いなどにより民衆の宗教心を満足させる民間宗教者でもありました。後に、彼らは地元で製薬業も営むようになります。今なおこの地方の伝統産業の一つとなっている売薬は、飯道寺山伏が起源なので

伏たちが定着します。彼らは入峰修行を行う一方、近畿一円のほか、土佐から信濃まで広範囲に檀那廻りを行い、伏見稲荷神社・多賀大社・石山寺などから勧進を請け負いました。その際、「神教御はら

さて、飯道寺の名称由来については、栗東市金勝の大野神社に伝わる「飯道寺縁起」には、宇賀太子と并財天とが習合し、飯道権現となる話が記されています。宇賀太子は、食べ尽さない米を与える神と

され、古事記・日本書紀にもある宇迦之御魂神と同じ穀物の神です。并財天は水神と位置づけられます。両者が習合して飯道権現となる話の背景には、穀物の神と水神、総じて農耕の神に関する信仰が存在したことをあらわしています。

また、飯道山のある信楽地域は古く信楽山とも呼ばれ、その名称が「粟木」より転化したとも言われるように、古代に多くの郡や寺院建築のために資材木が伐り出されました。飯道山の神は信楽山の神、森林を支配する神として考えられ、その一端は奈良東大寺にもみることができま

水取りで知られる二月堂の庭には飯道明神ほか三明神が守護神として祀られています。飯道神は、東大寺大仏殿造営の際に信楽山から原木を調達して難工事を成し得たことから祀られたともいわれます。

飯道山は近江屈指の修験道場として広く知られています。が、もともと、水・農耕・森林の神への信仰の山なので、(滋賀県埋蔵文化財センター 小竹志織)

水・農耕・森林信仰の山